
光の道 （二百文字小説集）

皆倉あずさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光の道（二百文字小説集）

【Nコード】

N5046P

【作者名】

皆倉あずさ

【あらすじ】

さらっと読める、でも不思議な世界、というのを目指して日々迷走中の産物。良く言えば幻想奇譚集、悪く言えばただの妄想電波です。日々の小さな空き時間にどうぞ。

不毛な数学談義

三百六十五歩のマーチを歩くと、通常の五倍の時間がかかると思われます。一分で着くなら五分、五分で着くなら二十五分、二十五分で着くなら百二十五分、百二十五分で着くなら六百二十五分……実に十時間と二十五分にまで膨れ上がります。朝の八時に出ても、到着は午後六時二十五分。一日潰れます。指数関数の恐ろしさ。自動車に乗ればこの問題は解決しますが、今度は三百六十五歩のマーチを歩けなくなります。さて、どうしますか？

不毛な数学談義（後書き）

十分大きな数の領域における、指数関数の断崖絶壁ぶり……

つくり話

深海探查艇の中で、こんな呟きが漏れた。

「壁とか潰れたら怖いよねえ」

誰も何も言わなかったが、誰も無言の内に同意していた。もし深海で壁にひびでも入ってしまえば……そして海水が船内に浸入してきたら……

助かる見込みはまず無いように思われる。

しかし心配する必要は無い。なぜなら船体には非常に高圧の圧縮空気が装備されていて、それを船内に吹き込むことで海水の浸入を食い止めることが出来るからだ。

——本当？

知らない。

氷河

氷河をつるはしで削り続けてはや二百年が経った。その間に、僕の体は疲労や寒さに蝕まれて、ぼろぼろになってしまっていた。つるはしを握り続けた手の皮膚は分厚く盛り上がり、顔は皺だらけで醜く歪んだ。全身の筋肉は軋んだような悲鳴を上げ、骨はもうばらばらになりそうだった。しかし心臓だけは、昔のまま変わらずに瑞々しい拍動を続けていた。僕はこの心臓のために、氷河を削り続けて来たし、これからも永遠に削り続けるのだ。

蝉が見た夢

二十年間を過ごした。

ある日のこと、縁側に座って夕涼みをしていると、一匹の蝉が庭の木に止まって鳴き出した。しかしどうにも弱々しい。もうすぐ死ぬのだろうと考えた。ここは一つ死ぬまで見ていてやろうと思って、立ち上がってその木に近づいた。死んだら庭の隅に埋めて、墓標くらいは立ててやろう。すると、剥がれ落ちるように、蝉が木の幹からはらりと離れた。その途端、電気のスイッチを切ったみたいになりが真っ暗になった。

サイエンス

地球が滅亡した。

私はたった一人生き残って、街の残骸から見つけ出したコンピュータに素数を教えている。

4？

3。

5？

そう。

その時、タイムトンネルが開いて、銀色のスーツを着た誰かが走り出してきた。そして私を見つけると、こう言った。

僕と一緒に来なさい。

絶対嫌。

すると、銀色スーツの男は光線銃を取り出して、コンピュータをどろどろに溶かしてしまった。

私は泣いた。それから男に手を引かれて、タイムトンネルをくぐった。

ヘルマ

ちっちゃい吉岡先輩が、横でトランペットを吹いている。

僕は何もせずに、それを聞いている。すると、ちっちゃい吉岡先輩は急に曲を止めて、

「ほら、アンタも何かやりなさいよ」

と言ったから、僕はその辺にあつた電子オルガンを弾いたらちっちゃい吉岡先輩は面白がった。それでクセナキスの「ヘルマ」を弾いた。楽譜も無いのにすらすら弾けた。しかし、ちっちゃい吉岡先輩は「それじゃ私が吹けないじゃない」

と言つて機嫌を悪くした。

ヘルマ（後書き）

聴けば分かるはず！

<http://www.youtube.com/watch?v=ffKu4MJNb5fI&feature=related>

実はこの曲けっこう好きなんです私。 たまに聴きたくなります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5046p/>

光の道 （二百文字小説集）

2010年12月25日18時08分発行